

# 平成 29 年度 文化創造都市高岡推進懇話会 議事録(要旨)

日 時：平成 30 年 3 月 29 日（木） 13：00～15：00

会 場：高岡市役所 803 会議室

出席者：【座 長】武山 良三

【委 員】川島 鋼、駒澤 義則

【アドバイザー】佐々木 雅幸

【事務局】二塚、大野、吉本、流森、寺口

## 1 開 会

- ・経営企画部長あいさつ

## 2 座長の選出

## 3 内 容

### （1）報告事項

- ・平成 29 年度 文化創造関連事業の実施状況について
- ・平成 30 年度 文化創造関連事業計画

事務局：— 資料説明 —

### （2）協議

委 員：29 年度にこれほどの事業をしていたとは知らなかった。発信はどのようにしていたのか。

事務局：文化創造都市のウェブサイトでも取り上げているが、追いついていないところもあり、個々のチラシ、ポスターが中心になっている。

委 員：市役所ウェブサイトのトップページに「文化創造都市」のバナーはあるが、色が濃く、「文化創造都市」と書かれているだけでは入ってみようという気にならない。気を引くような入り口にすべき。

また、一般の人に伝えるには平易な表現、キーワードやキャッチコピーが必要。文化創造都市と聞いただけで気後れがする。

座 長：これらの事業は氷山の一角であり、もっとたくさんの事業がある。いいものは残し、伸ばしていく一方、趣味的で小規模になっている事業は市から手を放し、整理していくべき。

委員：北陸工芸サミットはどんなものか。成功したのか。

事務局：国と北陸三県が主体となって、富山、福井、石川の順で、2020年までかけて実施していく。県レベルではアワード、シンポジウムと、付随する事業を実施された。本市では工芸ハッカソンが行われた。工芸に携わる職人といろいろなジャンルの方とがチームを組んで、工芸の未来をテーマに、成果品を出す試みを行った。富山大学芸術文化学部でも引き続きその成果を継続してやっておられると聞いている。

座長：全体的には私の評価はネガティブだ。国・県・市とのコミュニケーションがとれておらず、地場でやっている活動への影響の配慮がないことと、そして文化庁がお金を出しているが、デザイナーやキュレーターが審査員となっており、工芸・文化系の方が審査員になっていないのも問題だと感じた。

アドバイザー：富山県の新美術館の開館との関係で実施する方向が先に決まり、高岡市の既存事業とどのように連携するかという話が後回しになったのではないか。この問題は石川県・金沢市の関係者も懸念している。石川県は、2020年、国立工芸館の移転の年というスケジュールに乗せようとしている。

また、文化庁ではオリパラの2020にあわせた文化芸術関係の予算化をしている。そこで終わりにならないように、つまりレガシーを作るため、ビヨンドという名前の事業を出している。例えば若い工芸家を支援し育てるようなこと、あるいは大学との連携。そういう形を入れてほしい。

もう1つは、せっかく大きなお金が来て、世界の最先端の工芸とのマッチングができた。やはり若手の人たちを派遣したり、海外の新進の作家たちを1か月とか1年とか高岡に滞在させたりして交流させるような事業につなげてほしい。

座長：地域として文化をどういうふうにしていくのか。人材育成を含めてそういう議論があったうえで国のお金が出るのが理想。しかし現実はいったい議論がないまま、関係者のお金の取り合いになり、本末転倒だ。また、文化に「売れる」というキーワードを入れすぎるとまずいとも感じている。

アドバイザー：私も「稼ぐ文化」という言葉は下品だと文化庁のある人に言っている。「文化芸術基本法」は文化芸術の固有の意義と価値に加えて、社会経済的価値があるとされている。今度、文化財保護法も改正し、保護一辺倒ではなくて活用という流れになる。活用して、それで産業も活性化しながらその利益を保護に回していくというお金の流れを作るといふもの。北陸新幹線も開通し、インバウンドの増加を上手に使いながら、文化財を民間ベースで守るといふような戦略はかなりいいものになるのではないか。

座 長 : 「知る」ということが重要だと前から言ってきた。文化創造課のウェブサイトでは、さまざまな取り組みを一元的に管理するターミナル機能を果たしてほしい。アクセスしたときに 5W1H が分かることを必要最低限のレベルとして確保してほしい。次に、好みのある属性に対するプッシュ型の情報発信を組み合わせることが大事だ。

高岡市民文化振興事業団の総会報告にあったような、高岡の美術館や博物館の事業報告をここでも見たい。文化事業を日常的に行っている美術館や万葉歴史館の情報がこの資料に出てこないのはおかしい。

座 長 : 「つなぐ」という話。アート&クラフトシティ高岡推進委員会の事業に色濃く出てくるのは産業系であり「御車山祭」や「朗唱の会」との連携が出てこない。御車山祭は、もっとブラッシュアップして素敵にできる有数なお祭りだ。

アドバイザー: 徳島の阿波踊りが苦戦しているという。無料の観客はたくさん来るのだが、準備する側からは、警備などの費用が出ていくばかりだという。

座 長 : 朗唱の会の際に、駅の改札口の人や旅館組合のおかみさん会に万葉の衣装を着てもらって参加するようなことは、まずできる。町の人がどれだけ楽しんでいるか大事。参加したくても見ているだけしかできないのでは、つまらない。

委 員 : イベントの内容もさることながら、伝え方が課題だ。まず興味を引くところから入ってもらい、なるほどと思われたら、お客さんは来る。

座 長 : 川崎市のハロウィンが盛り上がっているのが典型ではないか。素人と呼んでいた人が自発的に楽しむ仕組みがあるとよい。御車山は難しいが、朗唱の会はなんの決まりもないので、ハロウィン化ができるのではないか。大学生も着物を着る機会があると喜ぶ。

委 員 : 来てもらって楽しんでもらうのが大事。御車山は迫力があるのかないのかよくわからない。写真でも伝わってくるものがない。

委 員 : 文化的なまちで行われている産業の営みが信用力になり、我々は世界や県外へ仕事に行きやすくなる。どんなイベントも、観光客の数うんぬんよりも、市民の応援団を育てるイベントだという意識だ。仏具の売り上げは低迷している。

アドバイザー: 生活様式が変わってくるから、新しいものに伝統を合わせるしかない。

高岡には能作をはじめとする成長企業がある。それが、高岡というまちのイメージの発信に非常に貢献している。高岡というブランドをもっと活用するという総合戦略を持つべきだ。金沢の仏具と高岡の仏具は違う。高岡の方が、クオリティが高いというのがブランド力だ。昨年、「文化経済戦略」を作ったが、これは文

化的価値と経済的価値のあわせ技で行きましょうということ。創造都市の取り組みを成果につなげたい。高岡の成功事例を資料にも反映させてほしい。

委員： 高岡の財産はまず文化的な伝統の重み、信用度である。観光客にとって金沢は魅力だろうが、ものづくりのひとにとっては高岡の信用力、高岡の伝統の重みがある。それを活かさない手はない。

まだまだ高岡という名前が地味だ。高岡がもっと有名にならないといけない。

座長： まちづくりは連鎖であり、全部コントロールすることはできない。自発的に各自が動くところに、コントロールを超えたおもしろさがある。基礎情報をしっかり流し、市民の方が自由に展開できるような体制を作る。懇話会としてはそれをチェックするなり、助言するなりするポジションでありたい。

### 3 閉会